

国立科学博物館附属 自然教育園

2019年度 学習支援活動

「やさしい生態学講座」(全6講座)

1. 2月18日(火)

田んぼが支える日本の鳥たち

金井 裕 (日本野鳥の会 参与)

コウノトリやトキの野生復帰で注目される田んぼは、ガンカモ類など多くの日本の鳥たちの重要な生息場所です。しかし、耕地整備や農薬の使用など田んぼをとりまく環境は大きく変わっています。水田での鳥たちの生活と保全について考えてみましょう。

2. 2月19日(水)

平凡な性転換、異様な雌雄同体

中嶋 康裕 (日本大学経済学部 教授)

私たちは雄と雌に分かれた動物になじんでいるので、性を変える動物や雄でも雌でもある動物はどちらも不思議に思えます。けれども性転換する動物の行動は意外に平凡なのに、雌雄同体の動物の振る舞いは実に奇妙なのです。

3. 2月20日(木)

都市と農村に現存する「緑」の生態系サービスを読み解く

大野 啓一 (元横浜国立大学 教授)

生態学分野の一つに植生景観生態学があります。本講義では都市と農村に現存する「緑」に由来する生態系サービスに係る機能を植生景観生態学に基づく調査研究手法で分析・評価した事例を紹介しします。

4. 2月21日(金)

路傍自然観察のすすめ

小松 貴 (昆虫学者)

市街地の緑地公園などで観察できる、昆虫や小動物に関する興味深い生態ならびにその観察の仕方についてお話します。

5. 2月22日(土)

植物をやめた植物、菌従属栄養植物

谷亀 高広 (瑞穂町郷土資料館けやき館学芸員)

葉を失い、生育に必要な養分をカビやキノコの仲間から得て生育している、植物らしくない植物をご存知でしょうか?本講座ではそういった奇妙な植物の姿を紹介し、その生態に迫ります。

6. 2月23日(日)

草地・草原の生物多様性保全

内田 圭 (東京大学大学院農学生命科学研究科助教)

日本の草地・草原環境は近年減少を続けています。それにとまって草地・草原に生育・生息する絶滅危惧種は増加しています。本環境における生物多様性について考え、保全に関する研究事例を紹介しします。

日 時 : 令和2年2月18日(火)~23日(日) 14:00~16:00

場 所 : 自然教育園 講義室

対 象 : 一般、大学生

定 員 : 各講座につき40名

参加費 : 無料(ただし、別途入園料320円が必要です)

申込方法 : WEBのみ 令和2年1月9日(木)受付先着順、定員になり次第締切
(自然教育園のホームページよりお申し込みください)

